

基本漢字の試み

尾崎 久美子

国際基督教大学教養学部語学科の日本語プログラムの初級段階では 400 の漢字を学習することになっている。1990年秋にその初級教科書を一新するにあたって 400字の漢字も見直すことになった。本稿は初級で学習すべき「基本漢字」を探る試みである。尾崎は1990年秋に「基本漢字」として 487字を提案したが⁽¹⁾、その後若干の修正を加え、今回は 516字をあげる。

まずはじめに、ここでの「基本漢字」を次のように定義したい。

「基本漢字」とは初級段階で学習するのが望ましい漢字をさし、

- ① その漢字を使った語彙が初級段階に相当であること
その漢字がよく使われるものであること（よってその漢字は「常用漢字」の中に含まれる）
- ② その漢字の形がより単純であること（他の漢字の構成要素⁽²⁾となっているものを含む）

とする。

以上の2点をもとに考えていくことにする。

I 初級語彙との関連による「基本漢字」選別の試み

まず①の観点から、本来は初級段階で学習される語彙をあげた上で漢字を決定しなければならないのであるが、今回は今までにすでに発行されている初級教科書で扱われている漢字や、今までに出された初級の漢字の研究・報告等、および新聞でよく使われる漢字の調査結果等を参考にした。②の観点からは、まず漢和辞典の部首となっている漢字を調べた。次の表はこれらをもとに 516字を選んだものである。その前ににあがっているのが今回参考にした 6つの資料であり、それぞれの漢字がどの資料で扱われているかは左側の黒い四角で表わされている。この表では部首はあくまでも参考で、主に①の観点から、初級教科書により多く出ている漢字から並べてある。

【参考資料】

- I ■□□ 漢和辞典の部首⁽³⁾
□□□

- II □□□ 『よく使われる新聞の漢字と熟語』⁽⁴⁾ から上位500字
 ■□□
- III □■□ 『漢字入門』(国際交流基金)⁽⁵⁾ から500字
 □□□
- IV □□□ 『基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK』⁽⁶⁾ から500字
 □■□
- V □□■ 『日本語教育機関におけるコースデザインの方法とコース
 □□□ 運営上の教師集団の役割の分担に関する調査研究—報告書』
 (5~2機関の初級コースに共通の漢字) から530字
- VI □□□ 「初級日本語教科書に提出可能な漢字の分析」(北條淳子
 □□■ 1975年)⁽⁸⁾ から「初級用漢字」346字⁽⁹⁾

【リスト A : 基本漢字】

■ ■ ■ 一 音 火 金 月 見 言 口 工 行 高 山 子 止 自 車
 ■ ■ ■ 手 女 小 食 心 人 水 生 青 足 大 長 土 日 入 馬
 白 風 文 方 面 木 目 用 立

41

□ ■ ■ 悪 安 以 意 引 員 院 右 運 映 円 横 屋 下 化 科
 ■ ■ ■ 家 歌 画 回 会 海 開 外 学 楽 活 間 感 気 婦 究
 急 強 教 業 近 銀 空 形 計 決 研 元 古 後 語 広
 向 考 校 号 合 国 左 最 作 残 仕 市 私 取 使 始
 思 紙 次 事 治 持 室 質 実 社 者 主 取 親 受 終
 週 住 重 出 春 初 所 送 少 上 乘 場 待 東 男 親 地 知 西
 政 切 千 先 前 早 送 天 多 電 都 体 当 發 頭 同 動 着
 中 注 朝 通 定 鉄 年 念 都 買 每 万 番 地 動 道
 働 特 読 内 南 別 年 歩 都 買 每 万 番 地 動 道
 品 物 分 聞 別 年 歩 都 買 每 万 番 地 動 道
 友 予 洋 様 来 理 両 良 料 和 話

171

■ ■ ■ 色 走 二 肉 八 父
 □ ■ ■

□ ■ ■	英 遠 何 花 顏 九 休 五 三 四 字 七 習 十 叵 茶	20
□ ■ ■	便 母 練 六	
□ ■ ■	死 申 世 声	4
■ □ ■		
□ □ ■	過 階 関 機 經 建 驗 現 好 濟 試 宿 真 席 說 選	
■ ■ ■	相 題 談 置 調 的 轉 伝 度 難 必 不 夫 部 報 問	36
	約 有 要 利	
□ □ ■	供 係 專 達 付 例	6
■ □ ■		
□ □ ■	覚 客 呼 卒 単 適	6
□ ■ ■		
□ □ ■	欲	1
□ □ ■		
■ ■ ■	黒 石 赤 力	4
■ ■ □		
□ ■ ■	駅 記 起 具 午 交 集 進 正 性 線 全 組 打 台 町	24
■ ■ □	点 答 放 薬 曜 旅 林 論	
■ ■ □	米	1
■ ■ ■		
□ ■ □	位 育 館 局 公 産 続 代 第 低 反 美	12
■ ■ ■		
■ ■ ■	雨 貝 牛 魚 糸 耳 夕 川 竹 鳥 田 比	12
□ ■ □		
□ ■ ■	暗 医 飲 夏 荷 寒 願 京 兄 降 姉 寺 借 弱 秋 森	
□ ■ □	寝 晴 折 雪 洗 退 貸 短 昼 痛 弟 冬 島 晚 閉 返	38
	勉 妹 油 遊 留 類	

■ ■ ■ ■ □ □	首	1
□ ■ ■ ■ □ □	解 光 種 助 船 末	6
■ □ ■ ■ ■ □	門	1
□ □ ■ ■ ■ □	營 佃 割 議 座 式 寫 商 信 農 費 路	12
□ ■ □ □ ■ ■	若 笑 深 族	4
□ ■ □ ■ □ ■	界 神	2
■ □ □ ■ ■ ■	非	1
□ □ □ ■ ■ ■	違 果 格 結 指 術 成 制 增 直 服 法 連	13
■ ■ ■ □ □ □	角 犬 戶 黃 鼻 里	6
□ ■ ■ □ □ □	繪 汽 去 才 似 授 暑 吹 池 枚 訊 預	12
□ □ ■ □ ■ □	泳 押 課 簡 困 辭 遲 渡 泊 疲 扌 忙 忘 礼	14
□ ■ □ □ □ ■	居 散 等 葉	4
□ □ □ □ ■ ■	奧 曲 婚 雜 史 靜 速 冷 歷	9

□□■	查 証 登 保	4
■□□		
□□□	規 義 参 常 勢 戰 然 争 展 統 独 務 命 優	14
■□■		
■□■	谷	1
□□□		
□□■	介 漢 慣 危 寄 吸 勤 敬 迎 券 菜 射 祝 招 将 側	22
□□□	賃 途 堂 符 舞 迷	
□□□	興 芸 講 察 節 帶 筆 弁	8
□□■		

計 516字

II 形による提示順の試み

さらにこの 516字を単純なものから複雑なものへと並べる試みとして、形による提示順を考えてみた。どの漢字が単純でどの漢字が複雑かを、ここでは構成要素の漢字に着目することによって考えてみたい。構成要素とは、例えば「親」という漢字の中の「見」という字のことである。「親」を習う前にその漢字の部分である「見」という字、さらにそれより前にその部分である「目」、それより前に「口」というように、その漢字の構成要素となっている他の漢字を先に提示するというやり方が「単純から複雑へ」のひとつの目安となると考えられる。従来の部首などによる形の認識だけでなく漢字のあらゆる部分を考慮に入れた。

まず 516字から「漢字の中に別の漢字を含んでいないもの」⁽¹⁰⁾（つまり構成要素としての漢字を含まないもの）をより単純な形として選び出し、それを一つの形から成り立っているもの（I）と、いくつかの部分から成り立っているもの（II）に分類してみた。それが次のリストである。（漢字は画数の少ないものから並んでおり、しかも曲線を含む漢字より直線で成り立っているものを先に並べてある。）

【リスト B : 漢字の中に別の漢字を含んでいないもの】

I : 一 十 七 人 入 力 九 土 口 工 山 上 下 千 才 大 夕 子 女 万

円五内月手午文木不介世立市弁母耳当年争先
光色良表長

Ⅱ：二八三川小六戸今予火化比水公父心払北代広
礼冬以竹成気毎池作汽形迎門雨制定非金建南
退変後茶発馬帯帰席展降家鳥進寒

次に今度は構成要素に着目して、516字を構成している常用漢字がどの位あり、それがどの位使われているかを調査した。次のリストの左側の数字は516字の内、何字にその右側の漢字が使われているかを表わしている。

【リスト C：他の初級漢字の構成要素になっている漢字】

237	口	32	人	13	寸	夕				
50	木	22	大	12	立	糸				
49	土	20	小	9	白	心				
40	日	16	月	8	力	女				
39	目	15	又	7	二	刀				
37	田	14	貝	6	止	自				
						竹				
						上				
						士				
						門				
5	万	子	弓	王	夫	欠	斤	古	寺	米
4	丁	工	己	午	方	由	可	矢	見	
3	九	山	千	牛	予	氏	且	耳	虫	各
2	亡	勺	内	斗	天	文	父	火	尺	占
	至	共	羊	我	壳	者	青	周	雨	台
1	七	才	与	丸	及	五	少	戸	反	金
	甲	玉	市	示	去	右	石	召	本	比
	百	曲	行	再	先	吉	同	合	会	失
	每	亜	何	谷	余	束	走	孝	完	吏
	受	軍	单	则	是	泉	度	害	曾	良
										黄
										動
										祭
										幾
										車
										豆
										重
										用
										央
										未
										里
										兄
										馬
										元
										代
										任
										更
										角
										今
										水
										厄
										世
										令
										争
										果
										申
										冬
										舟
										東

このリストを見てわかることは、「口」という字のような四角形は全体46%に使われているということである。また「木」「土」「日」「目」「田」等もよく使われており漢字にとって基本的な形であると言えよう。

以上、リストA、B、Cを①、②二つの観点から示した。「基本漢字」として、それぞれのリストの冒頭の方に出てくる漢字を初級のなるべく早い段階で学ばせることが望ましいのではないかと思われる。無論これはこ

のままの順で提示すればよいというのではなく、あくまでも漢字教材作成時に漢字を選定し配列する際の参考にするためのリストである。

【注】

- (1) 拙稿「初級用教科書開発報告——漢字」（『ICU日本語教育研究センター紀要』第1号 1991、所収）に教科書作成の経過については詳しい。提案した487字が今回の516字より少ないのはリスト A の参考資料の VI で北條氏による5つの教材に共通の漢字（1976）の118字を使用したためである。
- (2) 「構成要素」については後で詳しく述べる。
- (3) 『角川最新漢和辞典 第二版』角川書店 1982年 を参考にした。
- (4) 豊田豊子氏による。（凡人社 1981年 5月）
- (5) 伊藤芳照編著『日本語漢字入門 英語版 Nihongo: First Lessons in Kanji』国際交流基金 1978年
- (6) 加納千恵子・清水百合・竹中弘子・石井恵理子『基本漢字 500 BASIC KANJI BOOK VOL.1』、『VOL.2』 凡人社 1989年
- (7) 昭和63年度文化庁日本語教育研究委嘱、日本語教育学会編『日本語教育機関におけるコースデザインの方法とコース運営上の教師集団の役割の分担に関する調査研究 —— 報告書 ——』1989年
- (8) 『早稲田大学語学教育研究所 紀要 14』1975年 所収
- (9) 北條氏はその中で漢字数を350字としているがその付表には346字しか載っていない。この359字という数は、それに漢数字の「一」から「十」まで、および「百」「千」「万」の13字を足したもの。
- (10) ここで「別の漢字」とは常用漢字をさす。が、「一」と「十」は形が単純であらゆる漢字に含まれてしまうため考慮からはずした。

【上記以外の参考文献】

外国人の日本語能力に関する調査研究協力者会議編『外国人留学生の日本語能力の標準と測定（試案）に関する調査研究について』1982年 2月
昭和62年度文化庁日本語教育研究委嘱、日本語教育学会編『日本語教育機関におけるコースデザインの方法とコース運営上の教師集団の役割の分担に関する調査研究 —— 報告書 ——』1988年 3月